

既習学習を生かす

12月8日に、5年生の授業が行われました。単元名は「図形の面積」で、目標は、図形を分解したり、合成したりする具体的な操作（等積変形や2倍積の考え方）を通して、基本的な図形の面積の求め方を調べることができるようにする 平行四辺形、三角形、台形、ひし形、一般の四角形等の面積の求め方がわかるようにする 求積の公式に関連して、平行四辺形や三角形の底辺・高さの用語を理解することができるようにするです。



当日は、「台形の面積を平行四辺形や三角形と関連付けて求めることができるようにする。」という目標で、授業が行われました。また、「公式を覚えて使うのではなく、既習の図形に帰着して、台形の面積を求める過程を重視する。特に、対角線で2つの三角形に分割したり、等積変形して考えたり、倍積変形で考えたりして台形の面積を求めることができるようにするとともに、筋道立てて説明する力もつける。」ということを中心として、指導を行いました。

まず、台形の面積の求め方を考えるという学習課題が、子どもたちに提示されました。次に、子どもたちは、既習学習（四角形や平行四辺形、三角形の面積を求める時は、等積変形や倍積変形を利用する）をもとに、台形の面積の求め方について、見通しを立てました。子どもたちは、2つの三角形に分ける 長方形と三角形に分ける 長方形に変形する 平行四辺形に変形する 平行四辺形に倍積変形するなどの見通しを立てていました。



見通しに従い、子どもたちは、与えられた3枚の台形を使って、実にいろいろな考え方で台形の面積を求めていました。真剣に考えている子どもたちの姿が印象的な授業でした。

全学年の授業を通し研究を進めた結果、「わかる、できる、楽しい算数科学習をめざして」という研究主題に迫ることができ、指導のあり方が明らかになりました。

〔親と子のコミュニケーション〕

大切です

いじめを受けたことにより児童生徒が自らその命を絶つという痛ましい事件が続いている状況を踏まえ、文部科学省は、子どもと大人社会一般に対して、「文部科学大臣からのお願い」を発表しました。その大人社会一般に対してのお願いの中に「一つしかない生命。その誕生を慶び、胸に抱きとった生命。無限の可能性を持つ子どもたちを大切に育てたいものです。子どもの示す小さな変化を見つけるためにも、毎日少しでも言葉をかけ、子どもとの対話をしてください。」ということが述べられていました。

奇しくも、ある教育雑誌を見ていると「V i V i 流親と子のつきあい術」と題して、親と子のコミュニケーションに関して、示唆に富んだことが述べられていましたので紹介します。（一部抜粋）

【子どももひとつの「人格」を持つ存在です】

子どもには何を言ってもいいというのは、親のエゴ。子どももひとつの人格を持っています。冗談で済まされることと、済まされないことがあります。子どもは親への愛情がある分、意外に傷つきやすいもの。言葉に出すときには、十分な配慮を。



【完璧な子どもを求めない】

子どもは、常に親の期待に応えようと一生懸命です。子どもに「いい子」を要求し、それがプレッシャーとなり、子ども自身を苦しめていることも多いのです。その子なりの努力を認めてやるのが大切です。

【本当に「楽しい会話」って？】

「早くしなさい」「勉強しなさい」に始まり、学校生活や日常生活も「評価」や「否定」に終始していませんか？子どもの言葉に耳を傾け、話に広がりや夢を持たせるような楽しい会話ができますか？子どもが「もっと話したい」と思えるような「聞き上手」になりたいものです。



【話すことだけがコミュニケーションではない】

会話 = コミュニケーションととらえがちですが、そうではありません。一緒に行動するだけでなく、無言で「見せる」ことも大事なコミュニケーションのひとつです。「親の背中を見て育つ」にあるように、以心伝心を復活させましょう。



